

▶ S-KYT研修を受講して ◀

広島県大竹市

1. はじめに

広島県大竹市は、山口県との県境に位置する臨海工業都市です。大竹市から山口県岩国市にかけて石油精製、石油化学工業、化学繊維、パルプなどの企業が石油コンビナートを形成し、瀬戸内工業地域の拠点として発展してきました。

本市は人口が約28,000人、面積78.66平方キロメートルで、穏やかな瀬戸内海の眺めと幻想的な工場夜景を楽しむことができます。また、内陸部に目を向けるとロッククライミングの名所である三倉岳一帯は県立自然公園としてキャンプ場なども整備されています。阿多田島では鯛や特産のハマチto(と)レモンなどの養殖が盛んで県内1位の漁獲量を誇っています。



早朝の工場地帯

2. 消防団の概要

大竹市消防団は大正14年に旧大竹町、油見村が一丸となり組員765名で消防組を設立したことを祖とし、昭和29年に市制施行とともに発足しました。その後、平成13年7月には消防団本部に初めての女性団員8名を登用、幾度かの機構改革を行い、平成29年8月現在1団12分団28部、実員330名(定員330名)で編成しています。その内女性消防団員は消防団本部12名、山間部9名、島しょ部12名が在籍しています。なお、本部団員は災害の際は後方支援にあたり、平時は防火指導に

活躍し、分団所属団員は災害に備え男性団員と共に訓練に励んでいます。

3. S-KYT研修の経緯と研修の様子

消防団員の研修・訓練として、毎年消防団員公務災害防止研修事業を計画しておりますが、消防団活動の現場の多種多様な危険因子について、消防団危険予知訓練を学ぶべく、平成29年6月25日(日)にS-KYT研修(3時間コース)を開催しました。

各分団の班長以上を中心に参加した60名を10グループに編成し、4名の講師のご指導の下、DVDの上映を交えた講義や指差し呼称、指差し唱和で確認行動、タッチ&コール及び健康KYの実技による確認作業や各メンバーの健康状況を把握することの重要性を学びました。



消防本部多目的ホールにて



真剣なまなざし



タッチ & コール

実技4の危険予知訓練では、イラストシートNO.7「林野火災での放水活動」の現場活動に潜む危険要因をチームで出し合い、各班共に積極的な意見によりシートが埋め尽くされ、有意義な研修となりました。

研修終了後のアンケートには、

- ①分団の後輩団員へ情報共有・共通認識を持つよう指導したい。
- ②ルール of 厳守と準備が大切と再認識しました。
- ③職場でもKYTは実施していますが、違う視点でS-KYTの講義を受け、良い経験になった。
- ④火災現場への出勤経験が無いため、実体験された方の意見が参考になった。
- ⑤消防団活動の中での危険の多さにびっくりした。大切な仲間、自分が危険の中で怪我をしないよう事前の健康チェック、その前に日常の健康管理、活動中の指差し呼称を日常行う事をしていきたいと思います。皆が思いを一つに安全第一での消防団活動をがんばります。

など、参加した団員にとって有意義な講習になりました。



S-KYT レポート発表

4. 今後の取組について

大竹市消防団といたしましては、今後も公務災害防止・安全対策はもちろん、日々の健康管理のためにも健康づくりセミナーも含めて計画的に導入し、公務災害ゼロを目指していきたいと考えています。

最後に今回の研修実施にあたり、尽力頂いた研修主任の岡松指導員をはじめ、講師を務めて頂いた指導員の皆様に心より感謝いたします。



団長挨拶

**「大竹市消防団 ゼロ災でいこう
ヨシ！」**